一尾流之書

832
56

国立国会図書館　タイトル『一尾流之書』 請求記号 832-56

ガラス使用

一尾流之書

73

56

国立国会図書館　タイトル『一尾流之書』 請求記号 832-56

ガラス使用

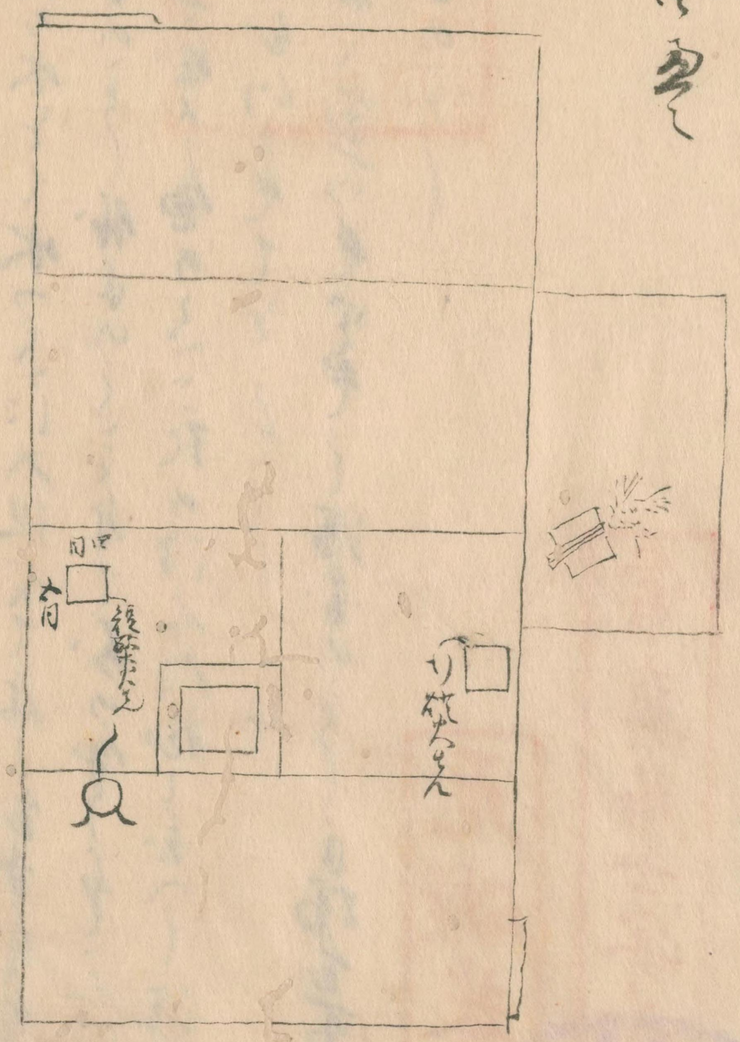
国立国会図書館　　タイトル『一尾流之書』　請求記号 832-56

ガラス使用

一乾坤をうちも籠くし宝舎人但右脇を充切小刀庵中ヲ
くため水をし水つきに大但舎て庵ヲ宝舎有宝和ハ
修学のこと脇よのくさ生てヲの雪ヲ三月祝
一定繋く宝和ヲ宝舎修学の
修学の

常真居士寄贈
今泉雄作氏寄贈本
无礙菴
寄贈

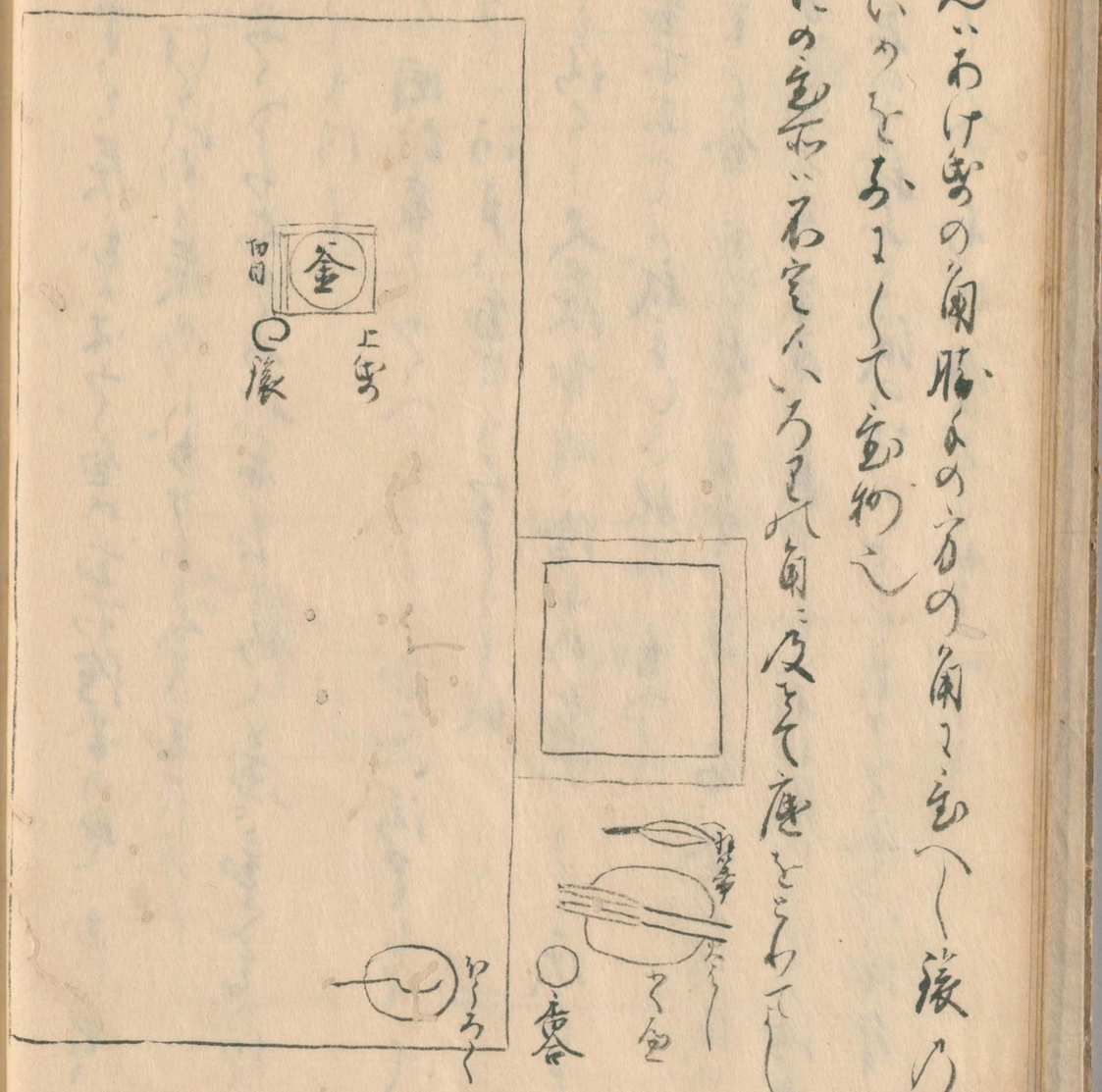
国立国会図書館　タイトル『一尾流之書』 請求記号 832-56
ガラス使用



一平をまた炭を以て本文の色の通り色を
かくへつばらぬわる炭文字いかすうらくて
一香合はかくへうわのうれ落しわしみくを
の形それに同し
一羽箒　図如表とかくへうふしまこ活用をとりて
お如きくいに行すてまそれうまくて
一炭わらくと又炭を以て絵器の色和らし
ケいに重ね右之ごく我ほしき紙和こ色へし
一平をまた金の色和右之ごく我ほしまそれ
九ノ方と合之前いまそれ真中に
こく客の方我おる紙の切りめとを
かまくへてあけ紙の上まおりくへし

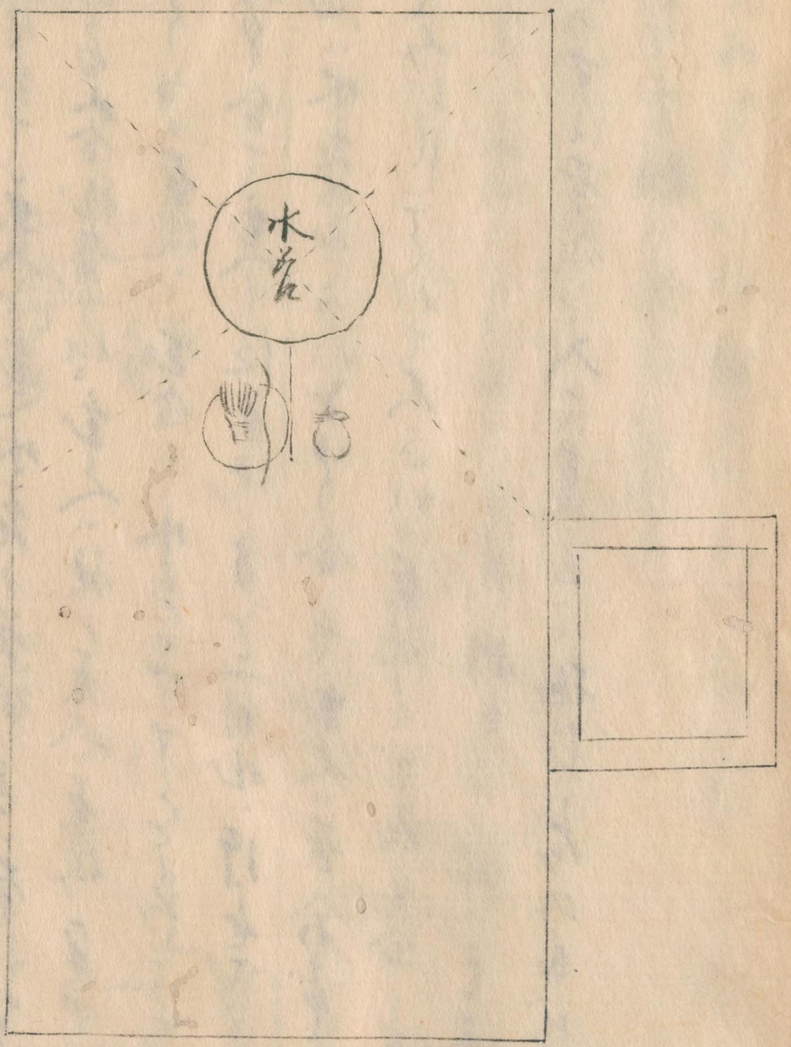
国立国会図書館　タイトル『一尾流之書』 請求記号 832-56
ガラス使用

一こんにゃくの角形なのを四つに切り
ちくいのをおこして魚物と
一こんたの茶わんにうどん角こしを盛とうてし



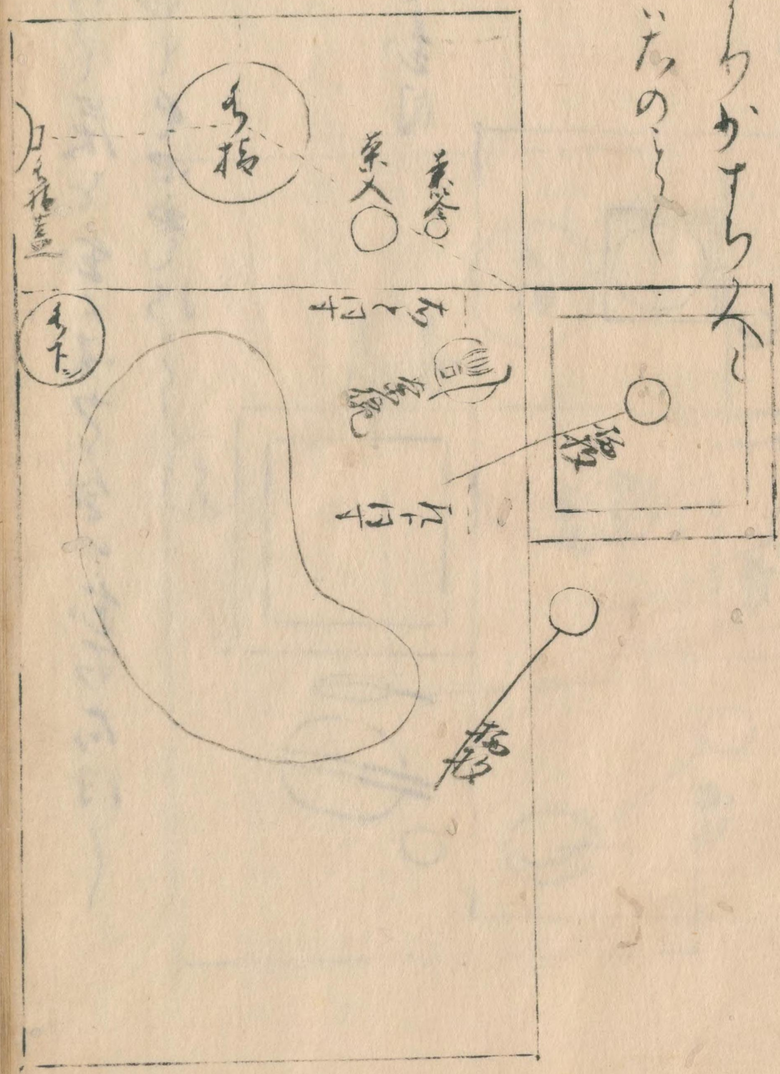
一汁三菜ずゝ水指の通りおき其中
一水差の真中に茶碗ノうらと合て茶碗をつしとみるとて
うらを三日ねて茶入を通し水差と茶碗ノ真中に茶入ハ茶杓の先を
水差のうら大分ねかし置ハ能人ハ能ねかし置
但大ぜうの茶碗を通合ハ水差の中すこしねかし置
ふと中と合て通し位茶碗ノ方を
をも細く水差のうらをもち合て通し茶入ハ茶合ハ
りてみにしてくれて大こしの茶碗にして
中水差のおのこと通して茶碗ハ
水屋の中ニ茶碗と入て蓋をとり
おろしてハ杓ハ右のわきに杓て

国立国会図書館　タイトル『一尾流之書』　請求記号 832-56
ガラス使用



一尾を水そうに入れ水合併用のこと

一水盛り方の二日目に入れ方の先を合せること



一尾を水そうに入れ水合併用のこと

一水盛り方の二日目に入れ方の先を合せること

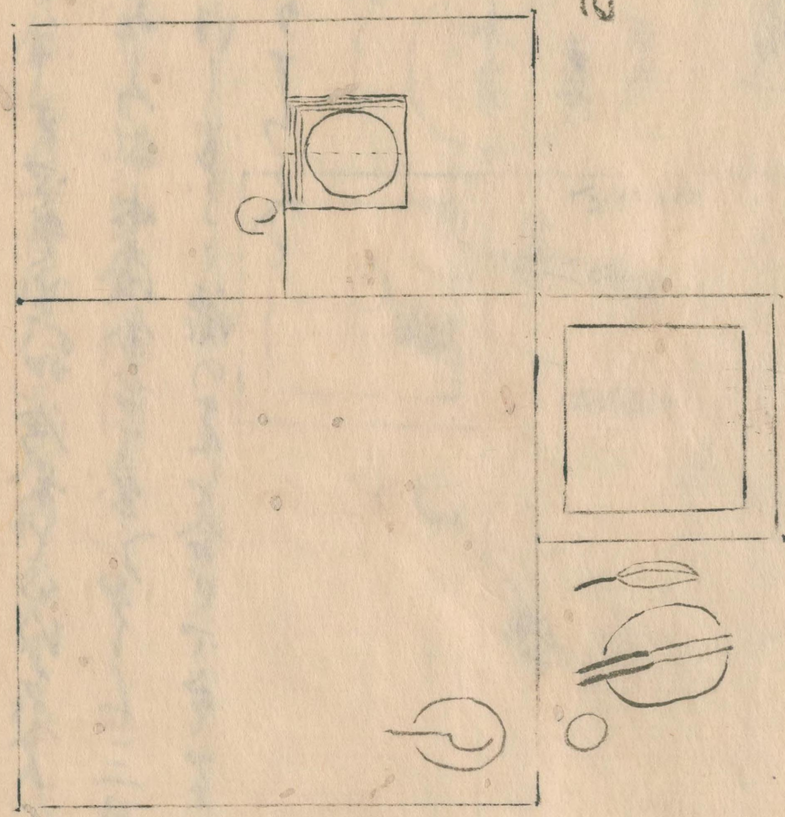
一尾を水そうに入れ水合併用のこと

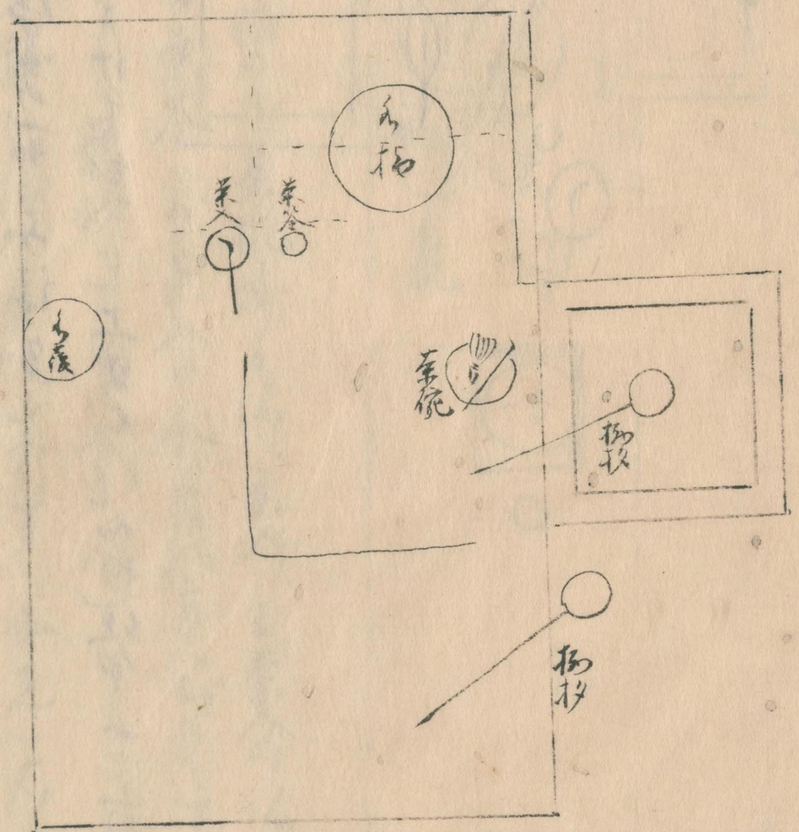
国立国会図書館　タイトル『一尾流之書』 請求記号 832-56

ガラス使用

一二尺大同く候を金人共ゟ
一釜好金而七口尺好ゟ

三尺壱間

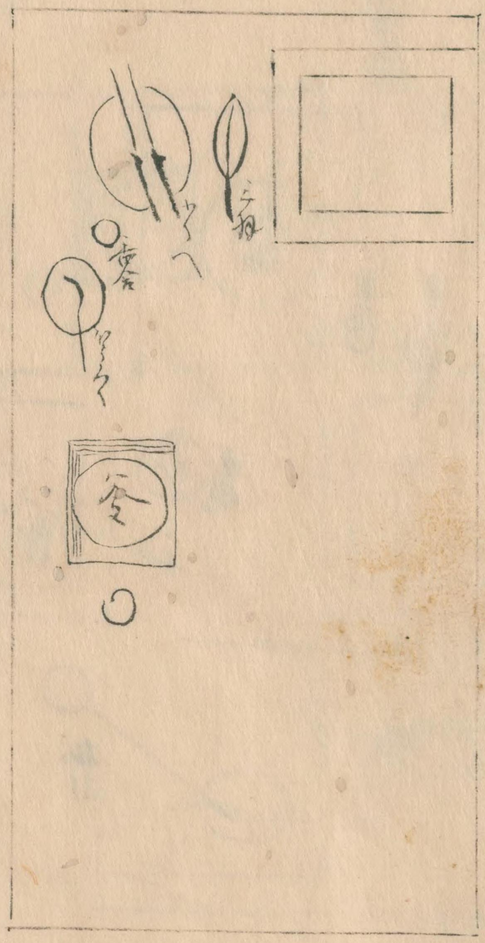




一番ゟ弐番ゟ七口尺ゟ程ひ
しさてゟ

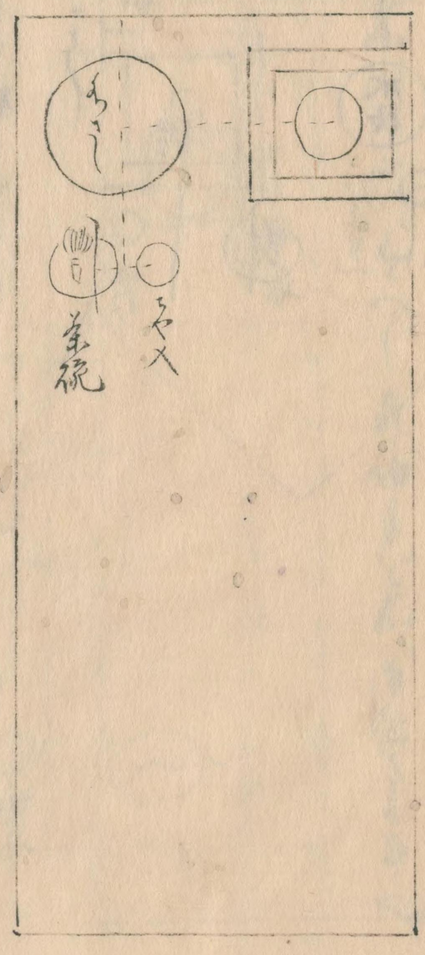
国立国会図書館　タイトル『一尾流之書』 請求記号 832-56
ガラス使用

一一巻まき尻を人木ゝ包み湯口の
尻ほう折をり湯巻の前にお込を
一釜に釜さまにりかけて釜へし上巻右同ゝ前ゝ



一一巻まき釜合ゝ事
一水指ゝ巻の真中ゟ従釜の真中通ゝ有板ゝ釜合ゝ

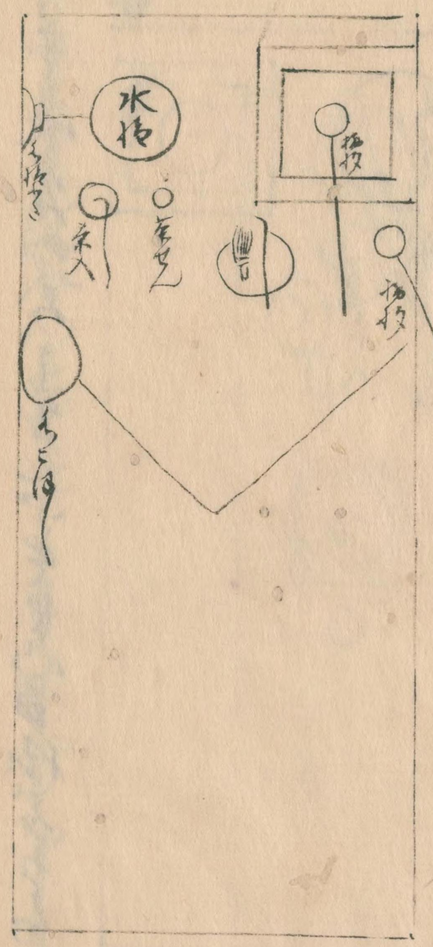
一一巻まき茶ゝ事水差のおゝ釜ゝ



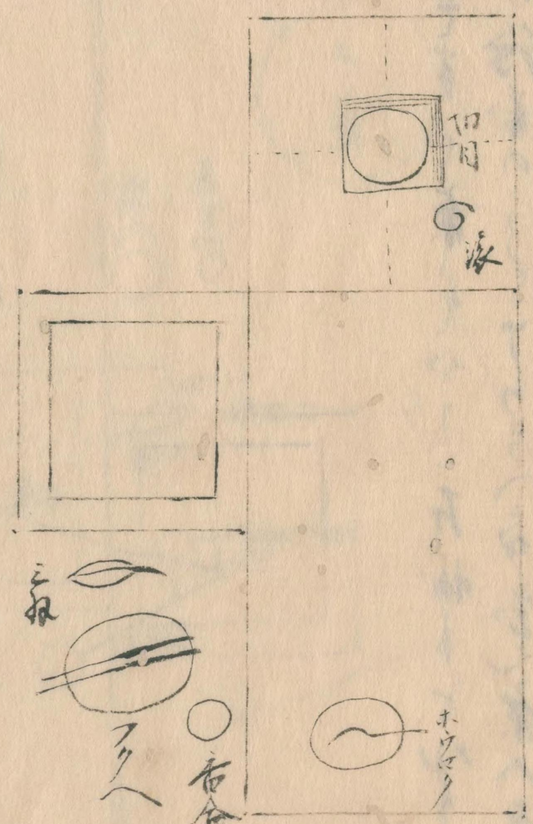
一茶入茶碗ゝ事水差のおゝ釜ゝ
一一巻まき茶ゝ事茶碗ゝ内のゝ茶筅ゝ湯ゝ茶入ゝ
茶巻ゝ釜ゝ左ゟ茶巻ゝお茶入ゝ水差ゝ方ゝらくすら
うゟ釜ゝ前ゟ茶杓ゟすらうへゝ
一茶碗ゝ内ゟ中ゟ角を取て茶筅の中ゟ合ゟ左ゝ方ゟ
中ごとく二月ゟ一ゟ茶筅のゟ供ゝ

国立国会図書館　タイトル『一尾流之書』 請求記号 832-56
ガラス使用

一杓子ハまるく金てうニ而荻葉形、
一蓋金海月ノ如ク三日月形ニして金ニ而
同ク小枝ニ而方ニ今一ツ金ニ而ほと
ゝぎすと宿ノ月、ともに此杓子の柄の上ニ金
一番すゝ小ニ而ほと(すゝき)ゟ一尺位ニ作ル
一水こぼしいざよひ
一水指蓋海ニ而



一右勝手ニ置ル炉ニ而ハ
一釜金ニ而ほと朱ニ而ほとゝぎす



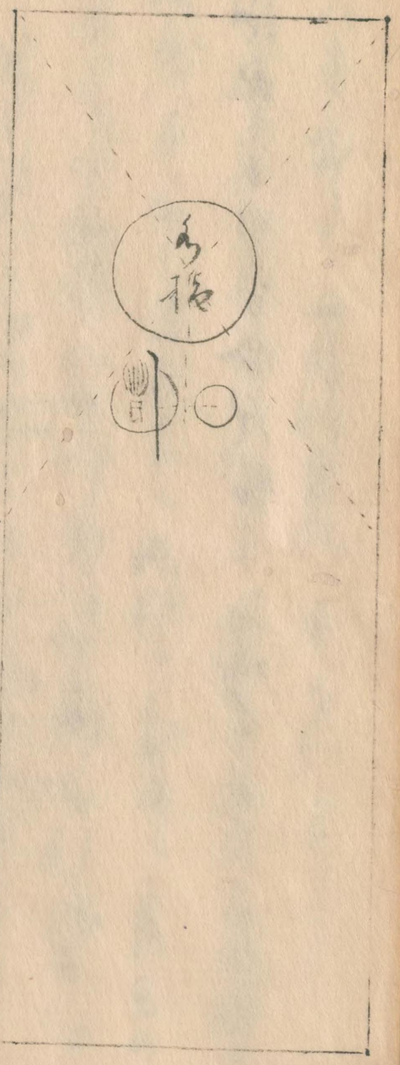
一右勝手ニ置ル炉ニ而ハ
一釜金ニ而ほと朱ニ而ほとゝぎす

一右勝手ニ置ル炉ニ而ハ
一釜金ニ而ほと朱ニ而ほとゝぎす

国立国会図書館　タイトル『一尾流之書』　請求記号 832-56
ガラス使用

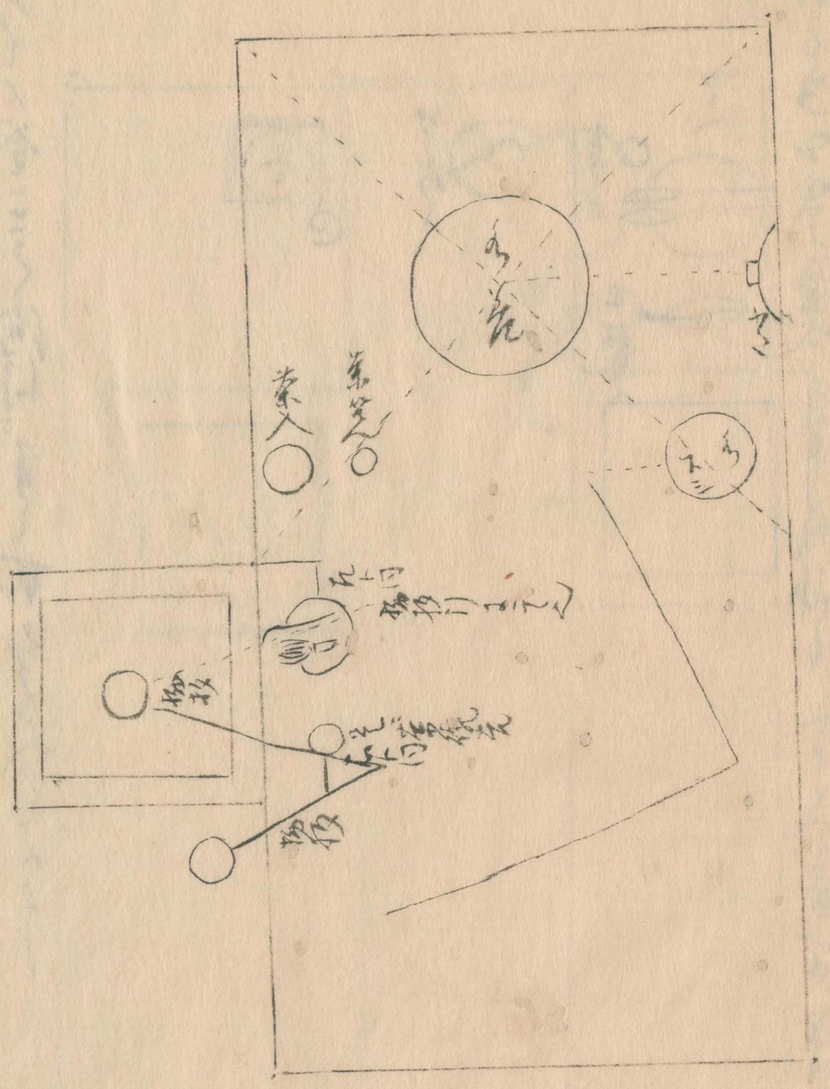
一右脇より出でまして柴をやうへ
手に但物投給ふのごとくすてやうへ
すると右脇よりの一投にて給ふを以て走り去る

右脇より出でまして

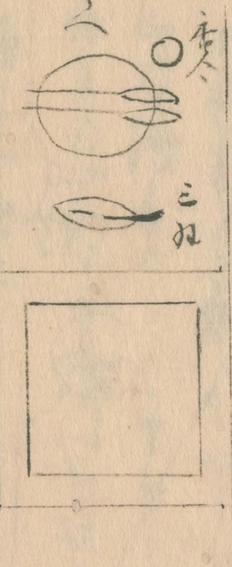


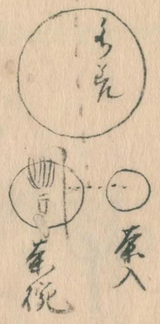
一右脇より出でまして柴を取り右の
手に但物投給ふのごとくすてやうへ
すると右脇よりの一投にて給ふを以て走り去る

右脇より出でまして



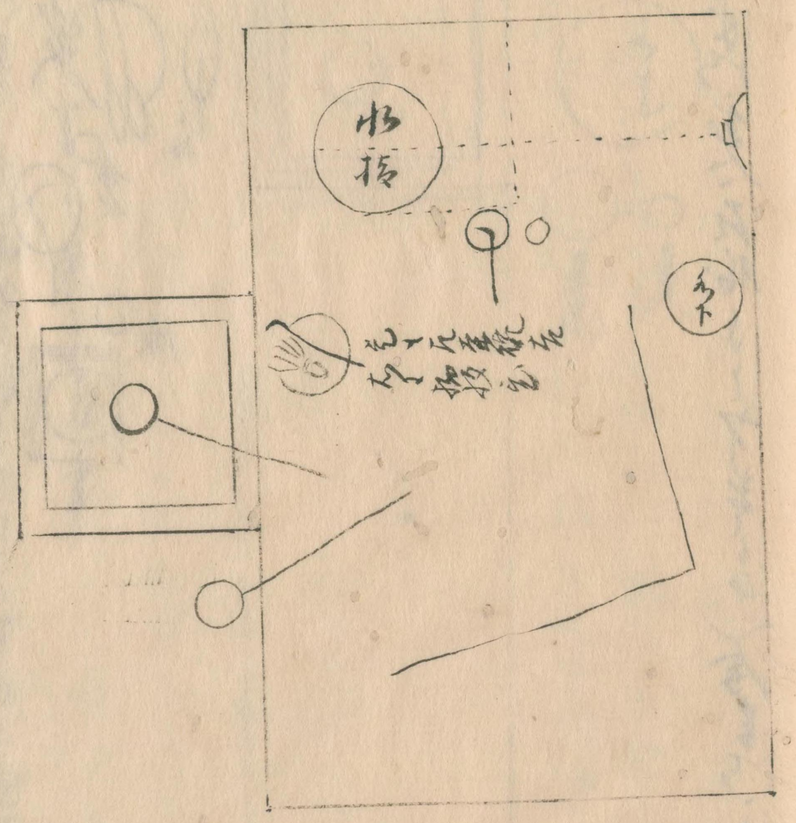
国立国会図書館　タイトル『一尾流之書』 請求記号 832-56
ガラス使用



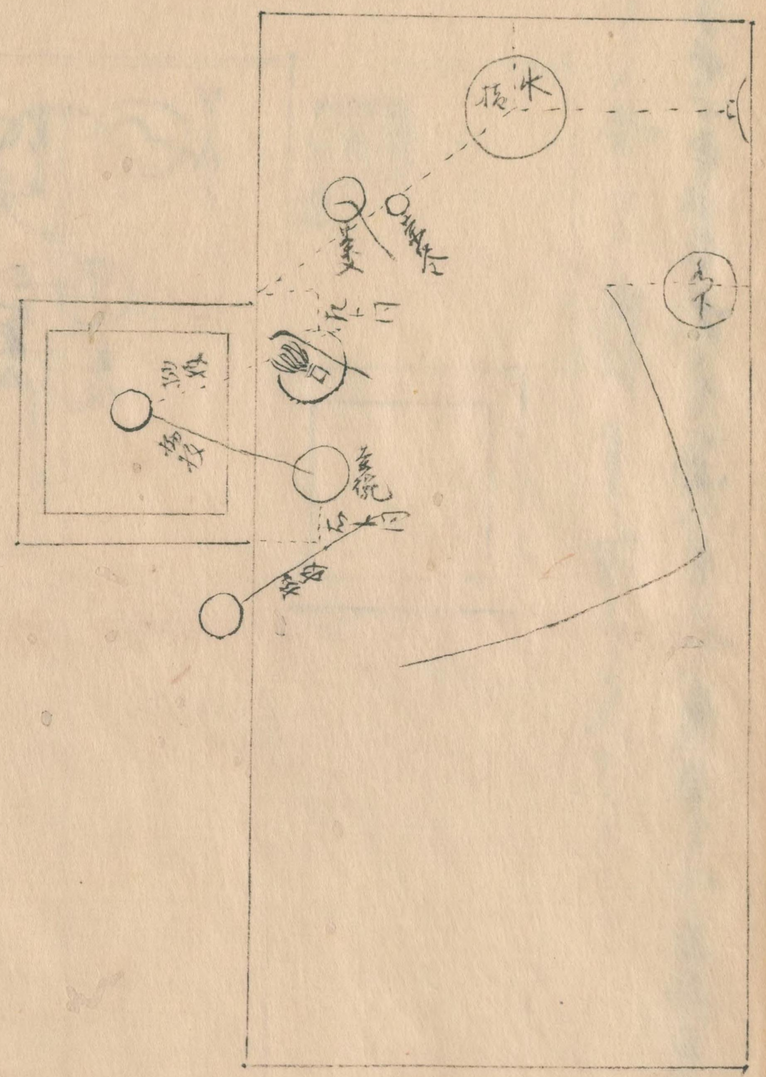


国立国会図書館　タイトル『一尾流之書』　請求記号 832-56
ガラス使用

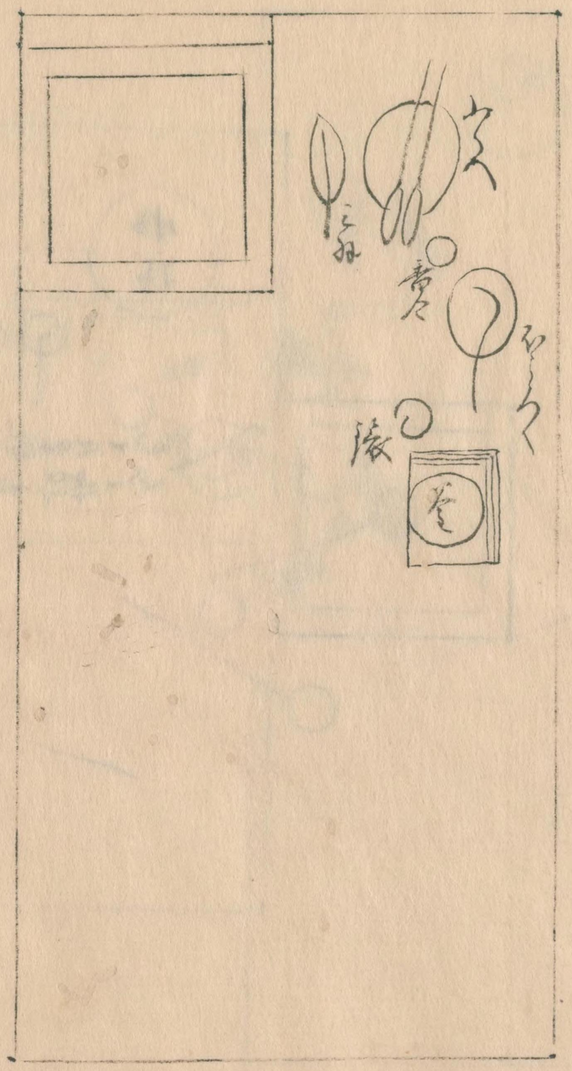
一右脇正一寸突く体勢から両手を

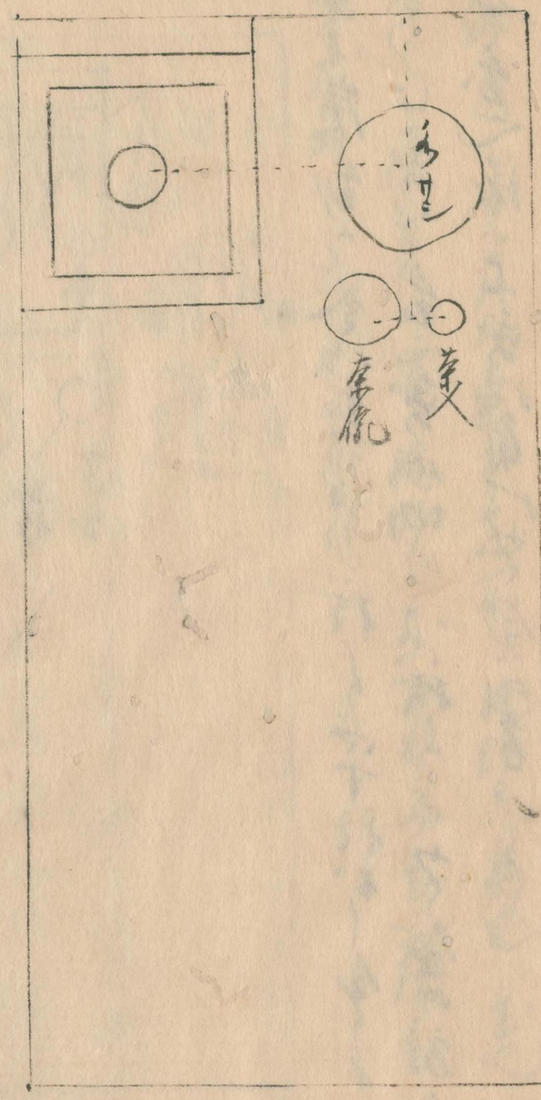


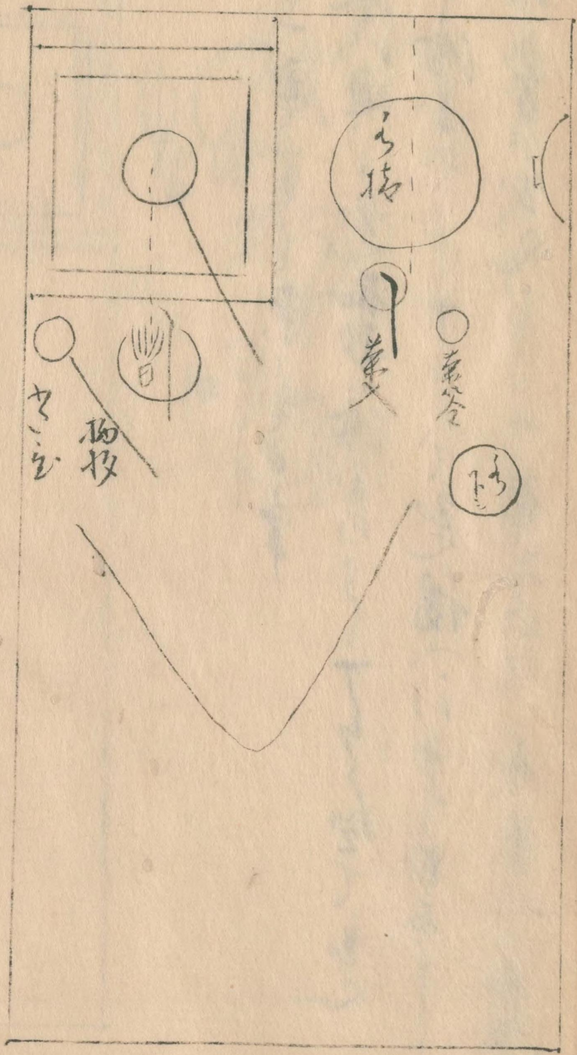
一右脇正二寸大円を描く体勢から



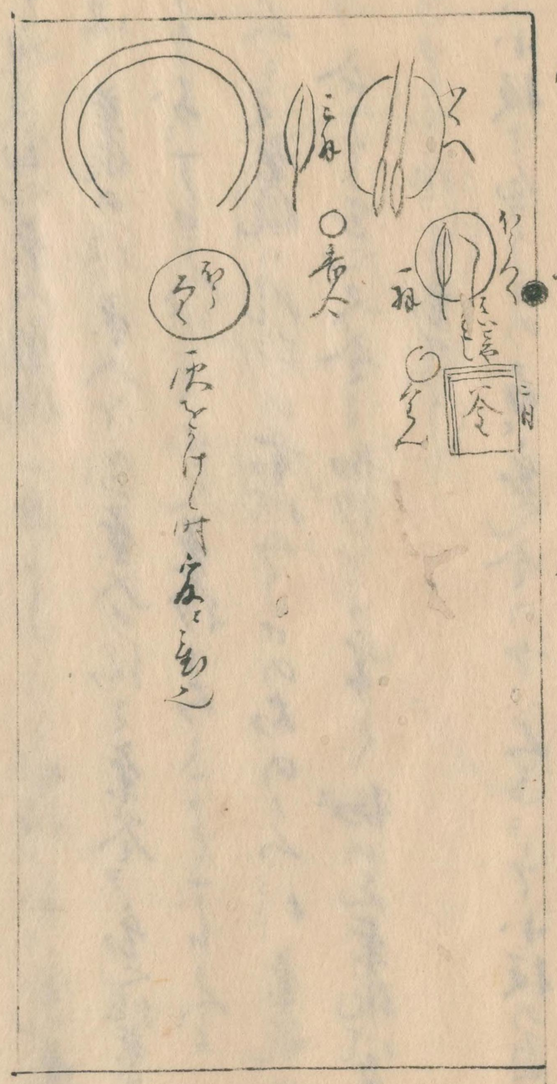
国立国会図書館　タイトル『一尾流之書』 請求記号 832-56
ガラス使用


実
葉々
陰
茎


実
葉々



一凡炉の炭斗に釜を置ひとり平花にて釜
二月にわけ釜と釜に釜の切目うち
うて釜に湯を入れふたを釜の方に
置て釜に湯の入る間に炭斗を釜の方へ



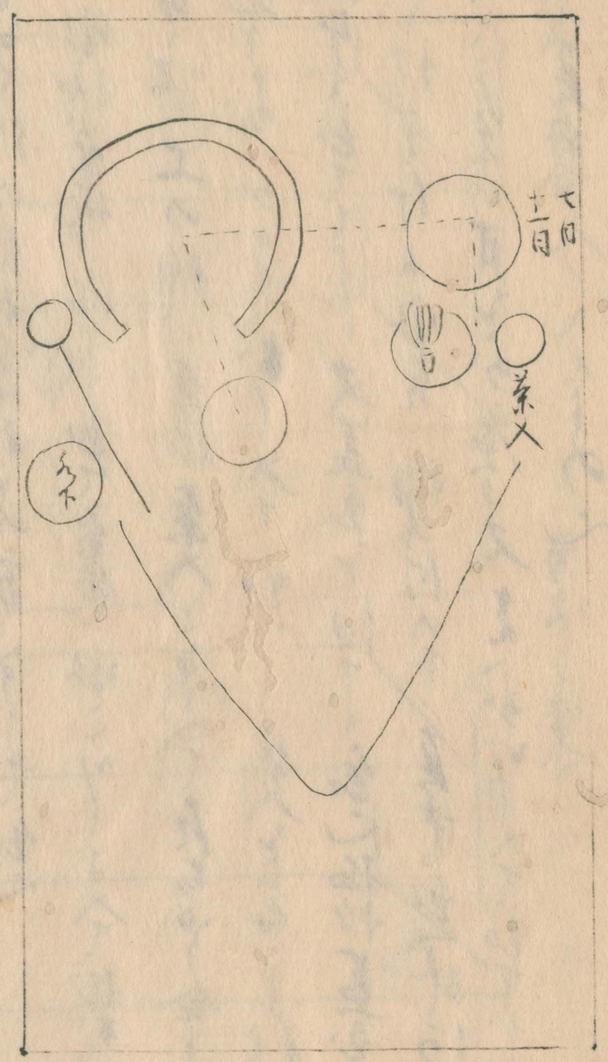
一炭入終るのごとく炭斗を元の所へ置
かりくくに炭を入れ凡炉の真中に釜
炉の中釜のごとくに直して釜に湯
を入る間に炭斗を釜の方へ置て

凡炉に釜

国立国会図書館　タイトル『一尾流之書』　請求記号 832-56
ガラス使用

一水板に置りより七月に至し下の細き水板九月に至ては小板九月に至ては下の細き小板の真中通に至之糸入糸底に一重ほまのごとく水板の糸に至之糸入と至糸入の後ち糸入ようなすりへして至之差板をかしこそ糸入ようなすりへして至之差板をかしこそ一糸ようなる糸底に乱筋の右のごとく水板の糸に至之糸入真中通に至之糸入又差板をうら筆にく板の左筆底真中に右ごとく板にし至てう

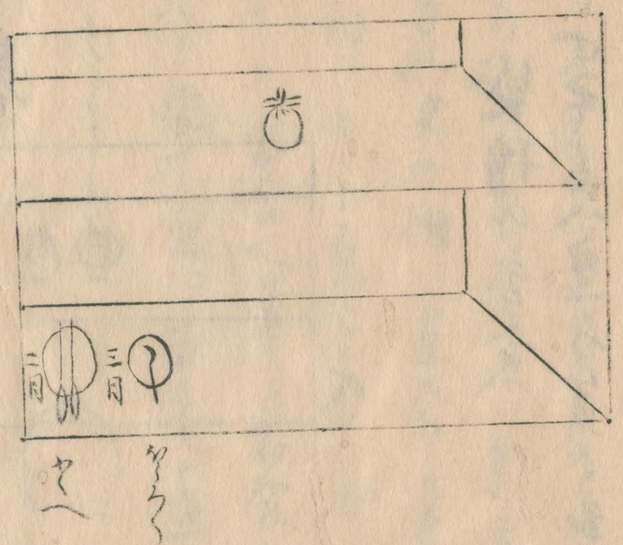
一蓋至小板と置りより右に至之差板の前ごとく水こはしてあとより前のごとく板を修筆さくし牛至置し

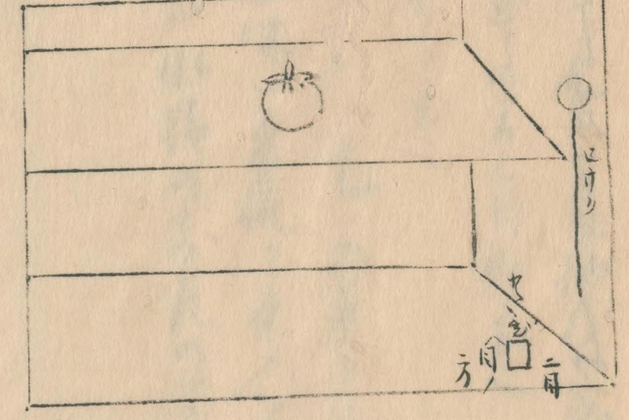


メウコ　至合

一たうこの至合初に稍の真中に糸入之至但ふたの至とも度り至へ真中に糸底の至へ真中に糸入之至合

国立国会図書館　タイトル『一尾流之書』　請求記号 832-56
ガラス使用

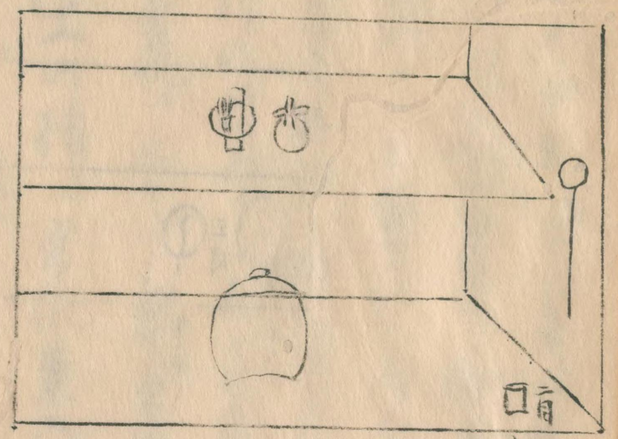




国立国会図書館　タイトル『一尾流之書』 請求記号 832-56

ガラス使用

茶之仕方之書



袋物の茶合

一袋物に茶を八匁を茶合として入れ湯を一日程煮方の度々

一水指は冷茶のごとく下に茶巾上の棚には物相蓋ものを

茶碗に茶筅蓋のためのごとくあるべし茶合は袋物の

ごとくあるべし茶碗は三日程煮るべし

一九の方より中の棚に茶入中茶碗

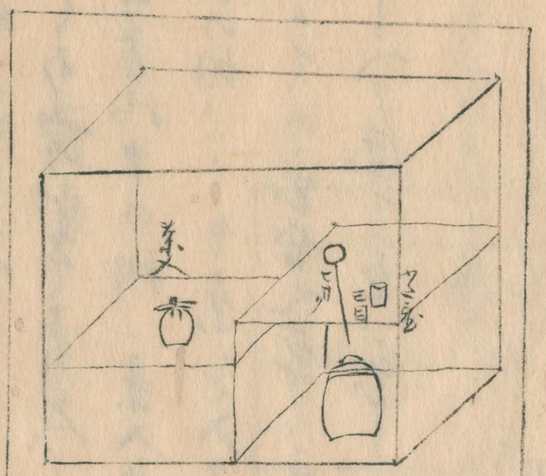
一袋の内にいかほども茶を入て茶合

なんての茶合之事に茶合共茶

ごとく使て也に茶巾蓋ものは水指のおれのすこ

ともごとし

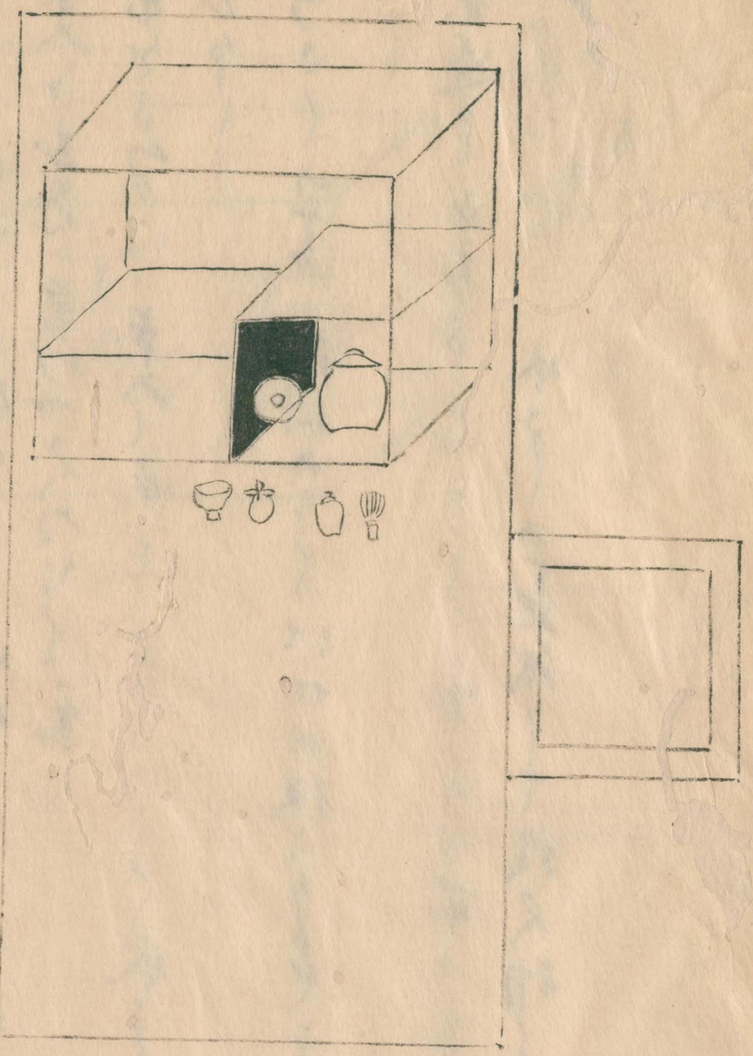
袋棚の図拵



袋棚を茶立る法 図面

一茶立の本棚ならびに道具を棚の真中の
ところの通り茶碗のうらと合そろえ三日に立て
茶入と蓋置の茶杓つくり置き
一茶と云る時に茶入と茶筅とまるの
ごとく
一ちさしの蓋に湯口のごとく仕切の板より茶を
ついれ
一茶通りし後蓋置ごとく湯をその所へ置
のちを改めて水さしの蓋取りて後又棚をたゝ
くる事なるべし

国立国会図書館　タイトル『一尾流之書』 請求記号 832-56
ガラス使用



常置之事

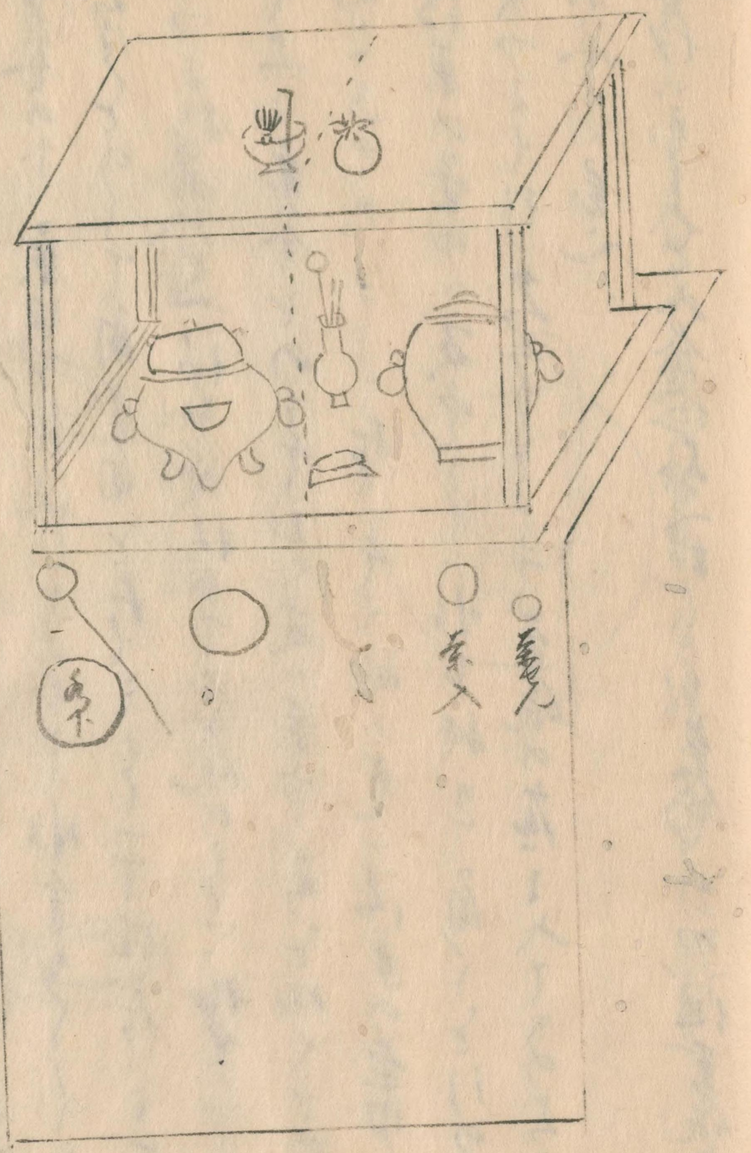
一置ふ炉一切の角に置てよし先に灰を
ふすねてよろと置てよし炉に置るゝ
合をて置てよし先とおい置事ゝ水指
をのようにして置ゝ柄杓を炉の
あけてとゝ置ゝ水差のとゝ(ゑ)おろして
炉ぬのうへに置ゝとおゝ水差と置ゝて
炉の下へ落るかとの比うし蓋置共の
上の柵ゝ渕茶のこゝ茶巾とたゝ
とゝうて置ゝ又茶巾大ゝ二ゝ有しかた(ゑ)
こしをしうろゝうて置ゝ
一柄杓立ゝ柄杓を茶ゑとゝ

う茶て先（今て也）

一すゝさねとれのあの柱の上まわ
しをしかけて也白し

一茶ん今ま木上の柵うたて也合て
もこも也）茶板の先板さらね柱
おはさん人くもてう

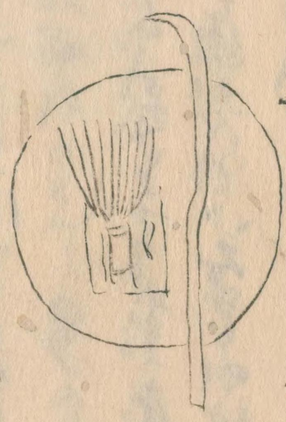
一茶ん今ま木茶硯綺茶のごとく釜の口の
もてう　是はたゝれ炉のごとく
一すゝ也て板の上しわ下へたろして
也こをはたしれ炉のはおはしく
ふ慶太のごとし



茶入ゝ茶釜ゟ中茶杓仕入れ
一茶硯の仕舞れ一茶硯の真中ゟ茶釜のあゝ間の右の

国立国会図書館　タイトル『一尾流之書』 請求記号 832-56
ガラス使用

右のごとく細く糸を合せて右のごとく
枝と茶筅のごとく一合程わくやうに
茶中に動て茶筅をむくに茶碗のうち
茶筅のたに茶巾を絞込いてをかやうに
をくとのごとくて角と角とたくさんに
つよき中を一杓ちかく杓て茶碗の
そこよく茶筅とのごとく文に茶巾にもとなくとも
ふこころてたのもうくたてそれに湯水をうくこと
湯茶の茶巾に文そこもこ水と絞れて角くとりの
幾つもしぼりとりて茶碗の底に入てそのよう
茶筅をもこ
一茶杓にてとくと合杓ふ(おしくし)茶碗に茶巾も仕茶筅ち

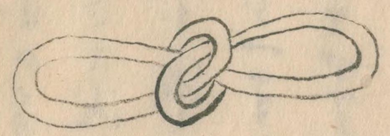


さくいかり合をそもこ茶巾絞りてとく絞りをそとりもこ

茶入袋之結様

上結

下結

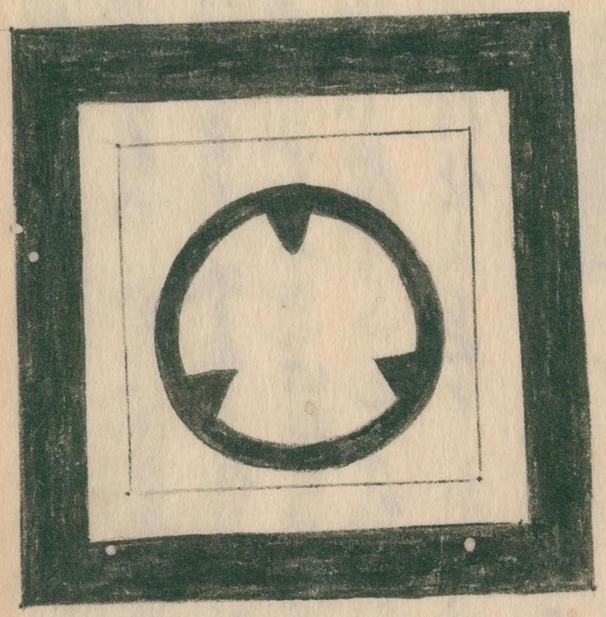


国立国会図書館　タイトル『一尾流之書』 請求記号 832-56

ガラス使用

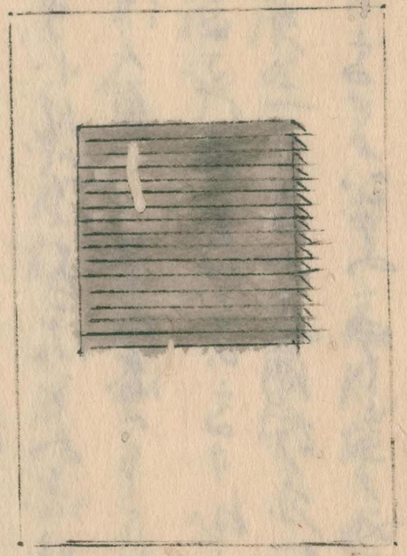
一、弓長さ定寸の事は角弓拾壱尺大小の有しうち
大弓二寸八分小弓二寸四分そうし
有し拾二寸ことと人ごとうし角の
しうし大庇かまち二枚のうち大板八九分一すの間
う松人大徳と大庇はそ仙先ん
角にいうしとしてすこの内め
弦人腰しかたとともに弦にすぐよ
門のえくとこうこうこうしてはく
ぬるくみしん
一人徳の入れ床のうこと一つ
もくまつのうこれないこと、弓長の
事にすゆまい足一つのうせう

同く一尋中くらい床ともあうとなし
一釜前もうき釜に物数と掛て弓長
そうし口度りくに字方えと去れ
釜とさけくに大服物数のえと
うし



国立国会図書館　タイトル『一尾流之書』 請求記号 832-56
ガラス使用

小板ニ札紙ヲ以テ
一札紙小板ノ裏ニ主人ノ仕札紙ヲ依テ
ニ本ノ板ノ裏ニ釜アリ札紙ヲ
一大板ハ九寸余四方ノ板ニ小札紙ヲ
ゆるし板ノ有リ度ク思フ先ノ
ル仕ゆるし板ノ裏ニ主ノ
成ルベク字ヲ書ベシ唐ニ而ノ
九ノ字ハ魚ノ形ニ似タル九日ニ
一小板ハ八寸余四方ニ仕板ニ大札紙ヲ
有ベキ板ト礎ノ裏ニ唐ニ成ベク
ヲ用ル事アリ大一日ニ
一大板裏ニ魚ヲ書先ノ
ル絵書ノ如シ



札紙ノ図ニ五徳ノ
一札紙ノ如キ大板大小ニ先ニ
裏ヘ二ツ折ニシテ
大ニシテ腸ヲ
一釜ト札紙ヲ先ヘ

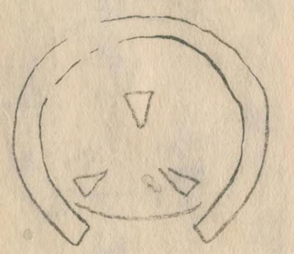
国立国会図書館　タイトル『一尾流之書』 請求記号 832-56
ガラス使用

釜も右のごとく釜ふくろの左右を金ぐ
松のもようと大小松風炉ようの風炉釜の真中にそ
一天小ごろの風炉釜ともに一ぐ松先をとるりすみるさるくい
生さりてうゆるく

一古器と釜との底のうら小風炉い一寸二分中風炉い一寸
六分大風炉い一寸六ぐ松そくらい
一底らう小風炉いぐ底を大徳のあとをくらい一寸七分松ごしる
九ぐ仕人角ひあて大徳のそこらい
一底のうさ共寸法のごとくすれむし大徳の四立こして右揚の
底のとあい二ぐうるくく又風炉先むしくい二分こるりくたんへ
右ぐめのごとくすみるくい穴ぐうるくへ(これ底ヲ抜ク也ニ底ノ後ノ小)
一大底い大小右依底一すくい右ごと

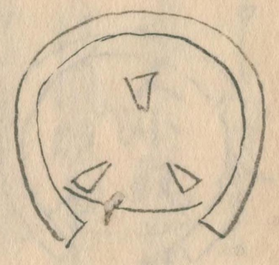
一中風炉ぐ底い大徳の角ぐうら一方ごすりてくいにするく
一方いとそこ角ぐ大風炉い大徳の四ごも右を当くく真立に
松くく底のごとくすれむし大風炉そくいこ寸
大ぐ松之

一底のうくへこ完書右ぐうくへ小風炉いぐうら律ぐこ次
やうる仕くへ中風炉小風炉ぐ右ぐうくへ大風炉中風炉
ありなでる仕くへ心のすくへをめて仕之場あし



小風炉さし法一ぐ二寸穴あく

国立国会図書館　タイトル『一尾流之書』 請求記号 832-56
ガラス使用



中尾好さし法二すれ

大尾好さし法二すれ

茶通用之事

一そんたくあく仁法をかへてやをらと座をうつし退てまた

一かくのごくそのあく仁法をもちひてもてなすこと

一かくのごくに数ケ度立てうつし立て数ケ度に仕つくる

一指の長さ等を細て指ほどの紙ノ端ノ炭い等を除きやうな脇ノ香ヤ等を細て去ともの炭大炭もこ屋ともを入ずともよろし後の炭ハ前の炭に似さるやうをとるべく細るやうにあいもこい炭ほと多入と上ノ白炭と脇ニ大炭抜掛等をとりへてしむ者なしと

一汗口ほとを七分同程入同程上ノ茶巾をとりしてかりとたゝみて茶事にもおよ

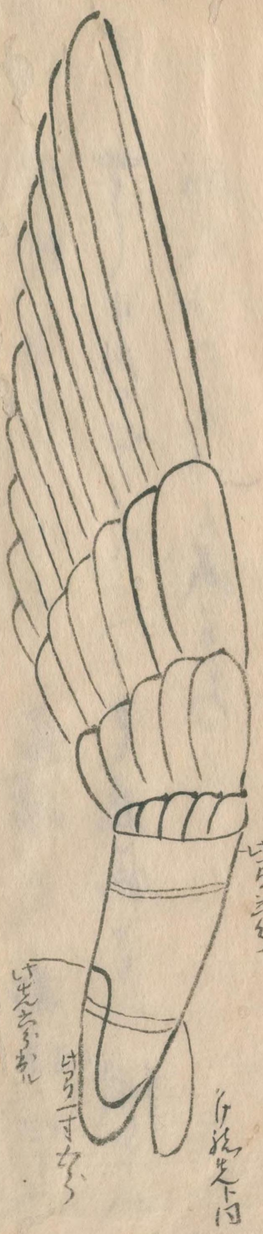
一水壺ニ面通りもし缺ありしくちもの程ニてをゝひ紙ニてをゝひ其ほくろもし蓋を中へ入て

の上へ松枝をおきて松なんどを後の庵の
かまへやうにこしらふ
一水指は面通のものこしらへ
一風炉の灰ならしやうくさ灰をこし
の枝ふと二つ置相篇をし一枝を
置て一つ枝をかくへる組置し
一籠の花入にもとをけ込一輪にて
置まし置へし活枝不入さやうに
一枝を置て仕廻て後ろいろ
おのおのへにくる湯を手
一爰をおきいろりの火をけして薪をくべ
お酒とめるやうにして賓客を茶中
庵を設るとて灰を入て炭を置ぬ
一庵ぶのおきたかまこしらへ
庵まへのうちに胡桃を漫石をと
一庵いもや石定メ仕そうとおもふ切て
そろそろ俗況四にかゝりて置之物庵いと
もふ迄切し後の物庵し落ち切
一白庵いおきを形の有ふいまこ庵に
こしらへ
一手水鉢のもの置うて刻入てこしらへ
入しも水鉢の前石を置てこしらへ
一腰懸し植れいな器一つの上へ池畔を
自然の完まさし通しもす

…灯心を同し灯台を一寸半位に
…数は九筋あんと同高さ下四
…重ねて立てとぎんて画之
一切灯下四の上に行のまと画て上を沖四と画る
行梅はおらんと実まで切心大行ら
…風実に浅きまで灯台の上の
…ちまち之を抜下中高重ねて
…そりて画し池四に景色そして漸々
…雑敬まで周画
一業中い地のりをさい九寸抜て後之
…始めいつの抜いまし〳〵ちび〳〵
一ちさまねい九寸高さ九寸に縦ら
…一つさ上の天八行一筋ち未の方を
…ちの名字人合に切合せすせら之行の
…行の抜の有所く抜をうちさらう
一床の座ちうの花入の行るさ床の
…之人せすこの抜寸行を寸人床の
…下のよな名字人に寸人床の上
一床の内絵幅の行い高梅の下
…行を寸人行の七寸九ちまちを
…九りきちうと出ちて床ちるりんち
一書院のまち抜ちえ沖ちちるりち
…まて二人二寸抜ち重てちし後
…形と沒て紙に寸其定ばくる

一金上の紙に於てもき方をみすあまり細に
して字二字程にしてうすく紙数にて字
一蓋壱行幅のすに二寸六分程にてうすく行の大きさ
一寸六七分のさし渡しうすく筋をこえぬ程
一両を用ゐ行のとゝかゝりを加て合そ
一寸六分同の細そすをえらぶべし
一もと大差もすに二寸三寸行のよ
波のもすに字一分程にしてうすく
糸そしのくもの
一もき事柄の大差のすにより字数多少九ら
らの一枚にまとめて一ら程そく物の
九ゝかさりわたし仕し

一大差もすに九寸たゝ門かすに
きりかしそもよそ本にて一ら程そく
一三程差もすに八分門二寸に行の波をうきと
波との方一ら程のさ上ゝ差もすに八寸
三ら二すべ行の波二寸弐分程にして
もやうにて程そしもれ程ら
ゝしむうちいれ程の肩の
よい波のとあを移りて
ら二程の中の程をく
中にうゝ程のうく



大和箒、結根

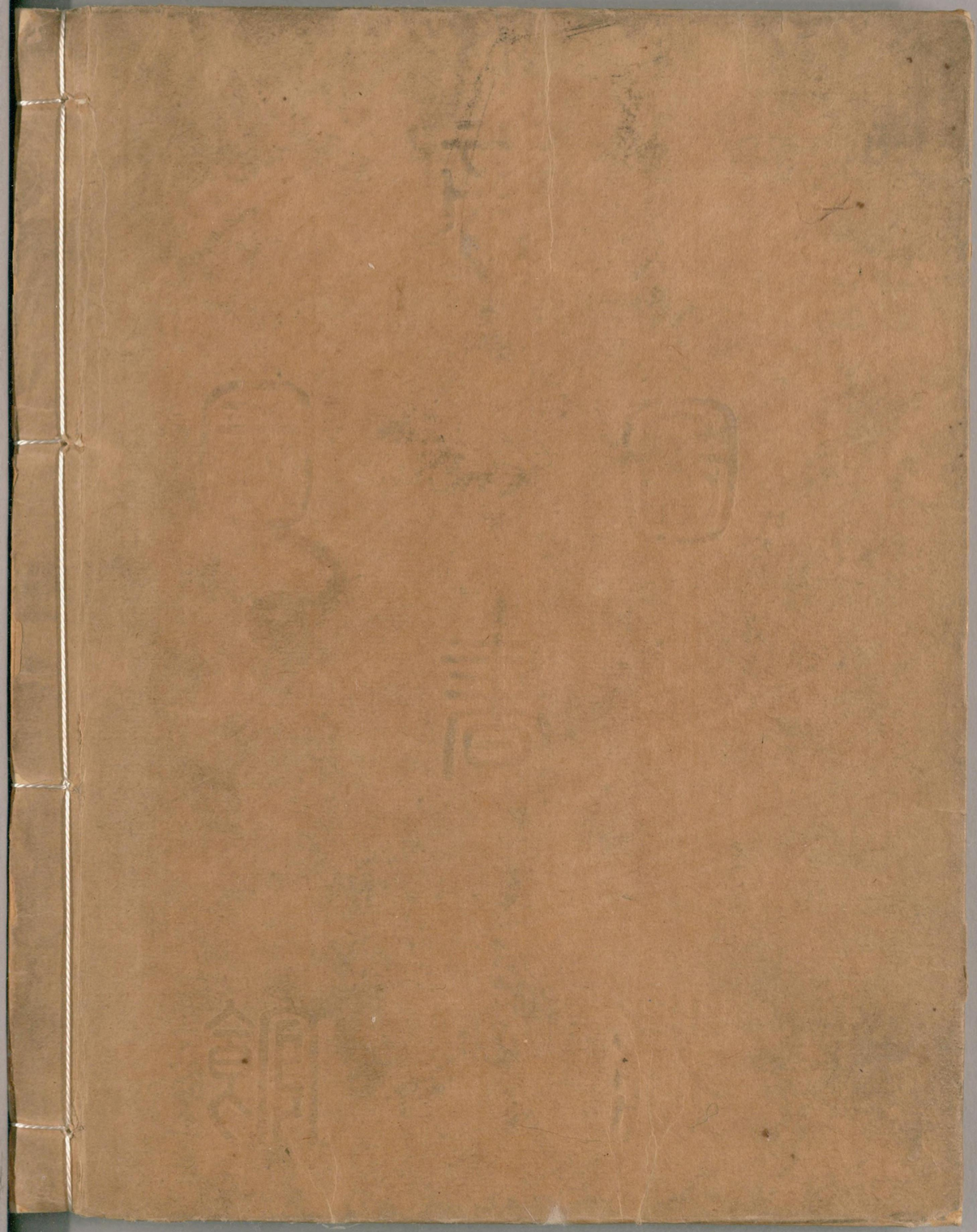
一大和箒ハ大寸ねのおよそ
結ねもと二寸ゆふ竹の
あつへし先ハ大小よろ
しかるへし

一二つね箒ハ風炉ニよろし白ノ
ふねと同し

832
56

就二冊ニて一通事濟可成と
申物ニ候へ共其節ニ至候ハヽ
其時之模様を以人ニ（而）取計可申候
此人ニ御さ候ハヽ成程ニ
月々
松壱小平ニ
一尾伝蔵

国立国会図書館　タイトル『一尾流之書』 請求記号 832-56
ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『一尾流之書』　請求記号 832-56

ガラス使用